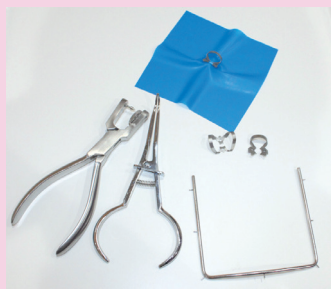


細菌から歯を隔離し、清潔な環境で治療を行うために

ラバーダム防湿をご存知ですか？

鎌田 俊 シュンデンタルクリニック院長



ラバーダム防湿に使用する器具



ラバーダム防湿を使用して根管治療を行っている様子。

虫歯の治療や歯の根の治療（根管治療）を実施する際に、歯の表面や唾液に含まれる細菌が治療の妨げとなります。このような状況を防止する方法として、歯の周りにかけるゴムのシート「ラバーダム防湿」を用いて、細菌から歯を隔離し清潔な環境で治療を行うことが有効です。

ためラバーダム防湿によって、根の中に細菌が入らないように治療を行います。歯の神経が死んでしまうと自然に治癒することはありません。ラバーダム防湿を用いずに根管治療を行うと、細菌によって再感染を引き起こし、治療の成功率が下がります。ラバーダムを使用した場合の治療の成功率は90%以上とされていますが、ラバーダムを使用しないで治療を行った場合の成功率は50%以下と報告されています。

根の中を消毒するには殺菌力の強い消毒剤を使います。口の中に入ると苦かったり、火傷をすることがあります。ラバーダムは口の中に器具が落下することを防ぐことも可能です。根管治療の際、針金のような尖った器具を使いますが、ラバーダムによって器具が口の中に落ちたり、飲み込んでしまうことを防止することもできます。

欧米では根管治療をおこなう際、ラバーダム防湿が一般的に施されますが、日本における普及率は5%以下と低い水準にあります。ラバーダム防湿を希望する場合は治療前に使用可能な有無をご確認ください。



PROFILE

かまだ しゅん 平成16年岩手医科大学卒業。
平成18年岩手医科大学口腔顎顔面再建学講座歯科麻酔分野。
平成23年岩手医科大学大学院卒業（博士号取得）。平成27年秋田厚生連雄勝中央病院（非常勤）。平成28年岩手医科大学非常勤講師。
同年函館市内にシュンデンタルクリニックを開院。
日本歯科麻酔学会認定医、日本顕微鏡歯科学会、
SJCD (Society of Japan Clinical Dentistry、 歯科スタディグループ)

